

リハビリ専門職によるシルバーカーの使い方講習会について

1. 経緯

令和5年度 **自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議**(R5.9.25)

- 理学療法士がシルバーカーの調整、使い方を助言したことで姿勢が劇的に改善した事例



高齢福祉課 総合相談・給付担当 係内で検討

- 要支援の方の場合、介護保険サービスの利用に限度があるため、リハビリなどを利用されている方は少なく、専門職（理学療法士・作業療法士）が関与していない方が多いと仮定。
 - 自己判断での使用を継続することで姿勢の悪化や腰痛など体への負担となり、将来的に悪化（要介護状態）につながるとも推測。
- 本人の体の状態に合った専門職によるチェックと助言の場の創出を企画することにした。



令和5年度 第2回 **地域ケア包括合同会議**

令和5年度 第1回 **チームミーティング** 令和6年度中の実施に向けた検討



- 令和6年度中に、モデル実施と効果検証を区が行うことになった。

ここまで前回報告済み

2. 目的

自立支援用具給付事業において、“シルバーカー”を購入した高齢者に対して、リハビリ専門職（理学療法士・作業療法士）が高齢者の体の状態を確認し、ハンドルの高さの調整、使い方の助言や試走を行う。

約1か月後に同じ専門職によるモニタリングを行い、体への負担軽減、要介護状態への悪化防止につながるかを検証する。

3. 実施方法(講習会・モニタリング) ※理学療法士・作業療法士 計2名で対応

- ①高齢者の体の状態を評価(聞き取り)
- ②使用中のシルバーカーのチェック・本人に合った高さに調整
- ③使用上の注意点・使用方法の助言
- ④練習(会議室内・庁舎外周) ※段差・スロープの使い方確認・助言
- ⑤モニタリング：自宅等に出張して実施 ※約1か月後



4. 実施状況

性別	年齢	介護度	タイプ	購入月	調整内容
男性	85歳	要支援2	B	R6年6月	高さ:Up(0.5 cm) 前輪:未調整
女性	87歳	要支援2	B	R3年10月	高さ:Down 前輪:ロック解除
女性	87歳	要支援1	C	R6年3月	高さ:未調整 前輪:ロック解除
女性	87歳	要支援2	B	R6年6月	高さ:Down 前輪:ロック解除(片側)



★前輪可動域の設計

B タイプ:0 度、90 度、360 度で調整が可能

C タイプ:0 度、120 度で調整が可能

5. モニタリング・アンケート結果から

高齢者		専門職（理学療法士・作業療法士）	
プラス	<ul style="list-style-type: none"> とても歩きやすくなった 専門の人に見てもらえる機会は貴重 自宅でのモニタリングが気分的に良かった 	プラス	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識を生かしたアドバイスが行える貴重な機会だった 自宅周辺での使用環境や生活場面が見られて有意義だった
マイナス	<ul style="list-style-type: none"> 区役所だと緊張した 	マイナス	<ul style="list-style-type: none"> 気軽に参加できる環境のほうがよかったです 責任を持った提案ができなかった（リスクの観点）

«高齢者のニーズ»

- ▶気軽に、身近な場所で、定期的に、やってほしい
※忘れてしまう。意識が持続しないなどの理由も

«専門職のニーズ»

- ・専門性を生かせる機会
- ・関わりのない高齢者へも生活環境に即した助言

6. 今後の対応

要介護状態にならないためにも『高齢者が地域の身近な場所で、定期的にリハビリ専門職からのアドバイスが得られる場』があれば、介護予防の取組みのひとつになる可能性がある。

リハビリ専門職が在籍し、かつ地域住民向けのイベントを開催している組織に対し、高齢者と専門職のニーズを提供。組織や既存イベントの課題などと一緒に検討を行うきっかけとしてもらう。

※既存の地域資源や関係機関・団体等とマッチングし課題の解決に繋げる生活支援体制整備事業(台東区社会福祉協議会に委託)の活用も一緒に提案